

平成 28 年度 練馬区在宅療養推進事業成果報告

平成 28～30 年度 在宅療養推進事業計画の事業の成果について、下記のとおり報告する。

1 目標

高齢者等が在宅で安心して療養できる体制の構築を、医療・介護の関係者が連携して推進する。

2 28 年度事業のトピックス

○ 大盛況に終わった「事例検討会・多職種交流会」

- ・全 4 回実施し、定員 400 名（各回 100 名）に対して 1.4 倍を超える延 565 人の申込みがあり、傍聴参加も 163 名であった（計 490 名が参加。）。
- ・参加者の約 76%の方から「満足」の回答を得た。
- ・地区ごとに様々なテーマ（胃ろう造設の意味、多職種が患者に関わるタイミング、視力障害を持つ独居の方の事例、老々・認知介護）を取り上げ、多職種連携の在り方について検討した。
- ・事業を開始して 3 年が経つことから、より効率的な運営のために、今後は会のタイムスケジュールの見直しや、事業実施による効果検証等の検討が必要。

○ 介護老人保健施設の調査研究・退院連携推進にかかる意見交換会を新たに開始

- ・老健の調査研究については、全 3 回の WG において区内老健が活発な議論を展開した。
- ・退院連携にかかる意見交換会を各地区 2 回ずつ（全 8 回）実施し、病院側および在宅側から活発な意見交換が実施された。
- ・両事業とも参加者から大きな期待があり、来年度も様々な意見をいただきながら、継続して取り組みを実施していくこととした。

○ 多数の参加者から好評だった「在宅療養講演会」

- ・小規模講演会の実施により、前年より更に広範囲から多くの方の参加が実現した（計 422 名）。
- ・参加者の約 3/4 が、「将来医療や介護が必要になっても自宅で暮らしたい」と回答した。
- ・参加者の 90%超から「満足」の回答を得た。

○ 地域の学習会で活用された「認知症ガイドブック」の普及

- ・内容がわかりやすいと評判、地域団体の学習会で活用が図られ、講師として認知症地域支援推進員が活躍している。

○ 認知症疾患医療センターと連携した支援を構築

- ・認知症初期集中支援チームへの協力や講演会での相談、定期的な連絡会の開催により認知症患者・家族への支援の充実が図られた。

○ 厚生労働省のシステムを活用し、「医療と介護の情報サイト」を開設

- ・医療機関情報、介護サービス事業者情報、生活支援情報、地域包括支援センター情報を網羅。厚労省システムの積極活用は都内初。

3 事業等の実施による効果

- ① 多職種連携に対する意識の向上
- ② 在宅療養に対する区民の理解促進
- ③ 在宅療養の推進に向けた 29 年度以降の方向性の確立

4 29 年度 of 取組内容

- ① 練馬区在宅療養推進事業計画に基づき事業を実施
 - ☞ 新たな取組として、医療・介護関係者に対し、医療・介護・福祉に関するアンケート調査を実施。また、今年度の新規事業である「退院連携に関する意見交換会」および「介護老人保健施設の調査研究」について引き続き実施していく。
- ② 成果指標を用いた事業評価の実施
 - ☞ 平成 31 年度以降に策定する在宅療養推進事業計画の参考とするため、成果指標に対する評価を引き続き実施していく。

高齢者等が在宅で安心して療養できる体制を構築する。